

組織ディスコース研究部会

主査：高橋正泰（明治大学）

幹事：四本雅人（関東学院大学）

1. 本研究部会設立の経緯

2011年4月に「言語派組織情報研究部会」のメンバーを中心に、より言説としての「ディスコース」へ焦点をあて、研究を進める研究部会として「組織ディスコース研究部会」を発足しました。本研究部会のルーツは1990年代後半に発足した「意味システム研究部会」であり、これまで下表のような変遷を経て、情報や組織現象を意味論的に解釈する研究を行ってきました。研究部会規則にて、2年ごと（最長4年ごと）に研究部会の名称を変えなければなりませんので、研究部会メンバーは当研究部会のことを「IMI（アイ・エム・アイ＝意味）研究部会」と呼んでいます。

活動期間	研究部会名	主査・幹事
1990年代	意味システム研究部会	主 根来龍之
↓	↓	
2005.4-2007.3	組織と情報技術への解釈的アプローチ研究部会	主 高橋正泰 幹 青木克生
2007.4-2011.3	言語派組織情報研究部会	主 高橋正泰 幹 西本直人／ 四本雅人
2011.4-現在	組織ディスコース研究部会	主 高橋正泰 幹 四本雅人

2. 本部会の目的

20世紀に起きた「言語論的転回」の影響は、哲学から社会学、心理学、人類学、そして、情報論や経営学（組織論）へと波及してきました。とりわけ、近年、ヨーロッパを中心に「ディスコース」への関心が社会科学において高まりつつあります。ここでのディスコースには、言語、物語（ストーリーやナラティブ）、テキスト、レトリックやメタファー等が含まれます。ディスコース分析においては、これらは単なる情報を内包した言説ではなく、実体概念から関係概念へととらえ直すことによって、人々が

どのように意味世界としての現実（リアリティ）を構成するのか、そして、社会的行為がどのように生成されるのかを明らかにすることが可能になると考えます。本研究部会では、こうした方法論・分析手法をもって、昨今の多様化する組織現象、および情報の調査分析を進展させることで、経営学のさらなる発展に資したいと思っています。

3. 本部会の活動内容

定例研究部会は年に8～9回、主に明治大学駿河台キャンパスの経営学研究所にて開催しています。その内容は、組織論・情報論についてのディスコース分析に関する海外・国内のさまざまな文献やペーパーを題材にしたディスカッション、そして、研究部会メンバー各自の組織ディスコース研究の報告を行っています。その研究成果は、2008年11月22日「言語派組織情報研究部会・公開シンポジウム：組織とナラティブ（語り）」（於：沖縄大学）、2010年度経営情報学会春季全国大会（於：東京工業大学）、2011年度秋季全国大会（於：愛媛大学）、2012年度秋季全国大会（於：金沢星稜大学）の「組織ディスコース研究部会セッション」で報告を行いました。

近年は、国際学会での研究発表を積極的に行なっており、2010年にはAcademy of Management (AOM) Annual Meetingにて、当研究部会メンバーで2つのパネルシンポジウム“Passion, Compassion and Social Power: Rethinking Japanese-style Management”と“Exploring Organizational Discourse of Passion and Compassion in Japanese Management”を開催、2011年のAOM Annual Meetingではパネルシンポジウム“CMS Meets The East: Studying Management Critically in Japan”を開催、そして、2012年には、Standing Conference on Organizational Symbolism (SCOS)にて、研究部会メンバーの

4チームが研究発表を行いました。2013年度は、AOM、SCOSのほかにも、European Group for Organizational Studies (EGOS)、The 8th International Conference in Critical Management Studies (CMS8)などの国際学会で研究発表を行う予定です。

また、当研究部会は、カーディフ大学やシドニー大学など世界の14大学からなる組織ディスコース研究の国際的コンソーシアム：The International Center for Research on Organizational Discourse, Strategy and Change (ICRODSC)のメンバーである、明治大学特定課題研究所：The Institute of Organizational Discourse, Strategy and Change (IODSC)と提携して活動しています。その一環として、2012年9月には、批判的経営研究(Critical Management Studies: CMS)の代表的な研究者Hugh Willmott博士(カーディフ大学)を招聘し、シンポジウム「ヨーロッパ組織論の最前線：ディスコース的視座とCMSの役割」を明治大学にて開催しました。CMS研究ではモダニズムを主流とする組織論をクリティカルに検討することが主たる目的ですが、そこにディスコースという視座を用いることによって、いかなる新たな経営組織論を描くこと

が可能となるかを議論しました。

「組織ディスコース研究」は、ヨーロッパの学会ではメインストリームとして盛んに論じられるようになりましたが、日本ではまだまだ発展途上の研究領域です。社会構成主義やポストモダニズムを用いて、「日常のディスコース」から、さまざまな組織現象を解明していこうとする、この新たな研究にご関心をお持ちになりましたら、当研究部会メンバーで翻訳した『ハンドブック 組織ディスコース研究』(D. グラント他編、高橋正泰・清宮徹監訳、同文館出版)が2012年3月に出版されましたので、ご参照いただければ幸いです。

最後に、組織ディスコース研究部会の定例会は、学会員の方にオープンに開催していますので、メールでご連絡をいただければ、直近の開催日・会場をお知らせします。お気軽にご参加ください。

研究部会連絡先

連絡先：幹事・四本雅人(関東学院大学)

電子メールアドレス：imi.discourse@gmail.com